

学ぶことの楽しさと充実感を味わわせる学習活動の工夫

－ 基礎・基本が確実に身につく、自分の言葉で豊かに表現できる子を目指して －

- 学校名 羽生市立羽生北小学校
- 所在地 羽生市北 2-1-1
- 電話番号 048 (561) 0058
- E-mail アドレス hanyukita-e@edu.city.hanyu.saitama.jp
- ホームページ <http://www.city.hanyu.lg.jp/school/hanyukita/>



1 研究主題

学ぶことの楽しさと充実感を味わわせる学習活動の工夫

－基礎・基本が確実に身につく、自分の言葉で豊かに表現できる子を目指して－

(1) 研究主題設定の理由

本校は「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業の羽生市における重点校として3年目となる。昨年度までは算数を中心に研究を進めてきた。今年度の県学力・学習状況調査の結果を分析したところ、どの学年でも算数科の県の平均正答率を超えることができ、「学力の伸び」も見られた。一方、国語科の読む力に課題があることが分かった。具体的には、文章問題に苦手意識をもつ児童が多く、文章を正確に読み取って理解したり、登場人物の心情を読み取ったりする問題の平均正答率が低かった。

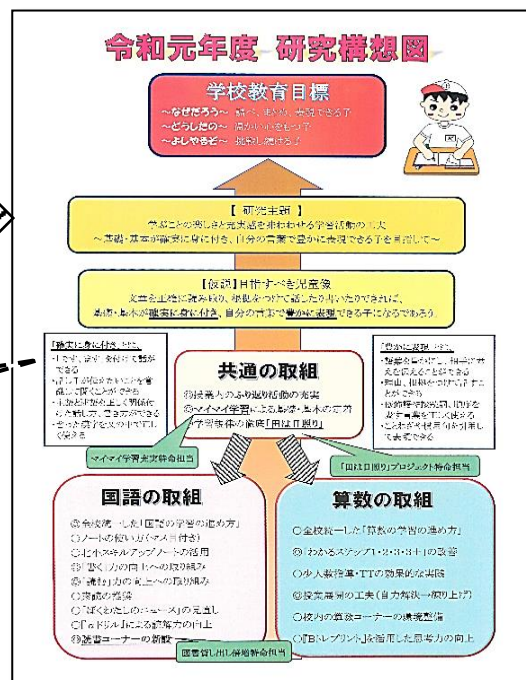
そこで、県学力・学習状況調査の結果を踏まえ、国語科において読む力を中心に高め、文章から根拠をもって正確に読み取ることができれば、自分の言葉で豊かに表現し、学習の楽しさや充実感を味わうことができるようになり、学校教育目標の「～なぜだろう～調べ・まとめ・表現できる子」の実現に寄与すると考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究の仮説

【仮説】(目指すべき児童像)

文章を正確に読み取り、根拠をつけて話したり書いたりできれば、基礎・基本が確実に身につく、自分の言葉で豊かに表現できる子になるであろう。

研究構想図を作成し、今年度の研究の方向性を職員に示し、一目で研究の概要が分かるようにした。



⑤ 読書の推奨

- ・ 図書室以外で本に親しめる「読書の森」を新設した。
- ・ 年3回（6月、11月、2月）の読書月間を実施した。
- ・ 校長に任命された「図書貸し出し倍増特命担当」の教員を中心に本の貸出数を増やし、10月現在で昨年度比+1.6倍になった。
- ・ 「ハートフルデー」と称し、月に1回、宿題を出さずに家庭で本を集中して読む日を設定した。
- ・ 担当が司書教諭と協力して、並行読書を推進した。

イ 算数部の取組

① 北小オリジナル「わかるステップ1・2・3・3⁺」

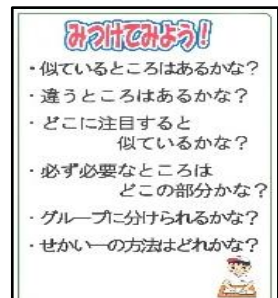
- ・ 本時の学習課題に対する理解度を自己判断するものとして活用している。これは、授業内で自力解決時と振り返り時の2回自己評価させ、授業内で児童は自分の変容を知ることができるものである。児童の記述した数字を基に理解度を把握し、的確な指導・助言を与えたり、次時の学習に役立てたりしている。



- 【ステップ1】 どうやって解いたらよいか思考している状態
- 【ステップ2】 解き方が見つかって答えが出た状態
- 【ステップ3】 言葉や図などを使って解き方を説明している状態
- 【ステップ3⁺】 複数の解き方で考え、共通点や大事な部分を見つけ、自分でまとめられる状態

② 練り上げの仕方の工夫

- ・ 発達段階に応じた練り上げの仕方の例文を記した「みつけてみよう」の掲示物を活用し、練り上げを充実させ、まとめへと確実につなげるようにした。



みつけてみよう!

ウ 学力向上を支えるその他の取組

① 学習規律の徹底

- ・ 「田は日照り」を合言葉に全学級で全項目を100%にするため日々取り組んでいる。学習規律が整い、集中して授業に取り組む児童が増えた。

② 自主学習の充実

- ・ 月に1回、各学年の自主学習の仕方が上手な「マイマイ名人」を選び、その名人を表彰する。名人に表彰状を渡して称賛し、そのノートのコピーを掲示している。



「田は日照り」掲示

(3) 学習環境部

ア 調査・統計部

- ① 児童への国語の意識調査
- ② 素読内容の選定

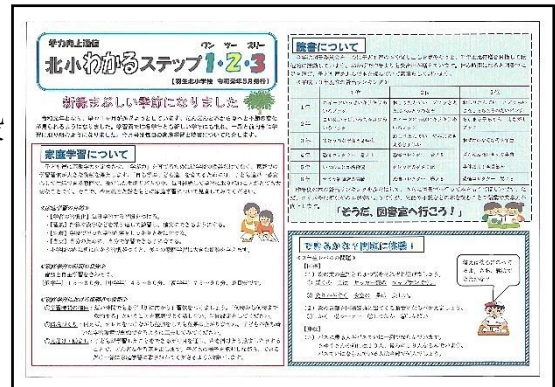
学習環境部では、授業研究部で依頼された研究で使う資料や掲示物などを各部で分担して効率的に作成している。

イ 環境整備部

- ① 校内の学習掲示物の作成
- ② 読書コーナー「読書の森」の新設
- ③ 学習プリントの印刷

ウ 広報部

- ① 月1回の学力向上通信の作成
- ② 国語の意識調査結果のグラフ化
素読内容の電子化



「学力向上通信」で保護者に啓発

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 授業内で意図的に書く機会を設けたり、振り返り活動や週末作文で書く活動を取り入れたりした結果、書くことへの抵抗感が減り、意欲的に文が書ける児童が増えた。
- イ 今年度から国語科の研究を重点化し、外部の先生から御指導をいただき、KJ法による協議を積み重ねた結果、国語科の指導力が向上した。
- ウ 「田は日照り」の合言葉が教員間に浸透した。その結果、教員の意識が変わり、児童の学習規律も整い、授業開始から終了までの45分間を落ち着き集中して取り組めるようになった。

(2) 課題

- ア 今年度までの研究や家庭学習を通して、学力が高まった児童とそうではない児童との間の学力差が開いてしまっている。
- イ 「読む力」を高めるためにはどのような取組をすればいいのか研究の途中であり、これからも研究を進めていく必要がある。

(3) これからの取組

- ア 今年度から研究を始めた「読む力」の向上に係る取組を、PDCAサイクルで検証しつつ、改善を図っていく。
- イ 算数の授業では、TTや少人数指導での効果的な指導法の模索、国語の授業での支援方法についても検討し、低位の児童に対する支援を考えていく。
- ウ 基礎的・基本的な学習内容が定着しつつある今、次のステップとして活用問題に取り組みせ、より高い学力を身に付けさせる。
- エ 語彙力を増やすための活動を考え、児童の表現力を高めていく。